

平成27年度 各種調査結果等を活用した学力保障の取組事例

事務所名	県北	学校名	久慈市立宇部中学校	TEL	0194(56)2322
------	----	-----	-----------	-----	--------------

各種調査・アンケート結果を活用した課題解決のための組織的な取組

【ねらい】

- (1) 県学調や全国学調の分析結果や各アンケート結果の共有
- (2) 課題克服のための授業改善を意識した授業研究
- (3) 学力保障に向けた組織的な取組の充実

【具体的な取組】

(1) 県学調や全国学調の分析結果や各アンケート結果の共有

ア 年度初め、昨年度の県学調・全国学調の結果から見える本校の課題分析・具体的な方策の共有化

《H26 県学調 1 学年国語》

学年	教科 (国語)	(1) 学年
岩手県学調 本校の傾向や個々の状況	○領域・観点別では、「話すこと・聞くこと」が高く、70.8% (県 59.0%)、「書くこと」が低く 25.0%。全体の正答率は 51.9% (県 56.1%) ○「国語の学習が大切 (必要) だと思う」は 83%。「授業の内容がよくわかる」は 67% ○心配される生徒は、予想通り 26 問中 7 問しか正解していない。	
設問と本校の正答率 (県)	設問と本校の正答率 (県)	分 析
特に優れているもの	国語の働きについて理解し、正しい歌語に書き直すことができる。 83.3% (県 42.5%)	生活言語としての歌語がある程度定着しており、その部分が表れたといえるだろう。歌語については、大人の言語環境によってどんどん変化するため、常に言語感覚を研ぎ澄ませようという教材提示・情報提供をしていきたい。
読むこと	場面の移り変わりを考えて、読むことができる。 66.7% (県 37.0%)	授業の場面では、物語や小説教材が長文であっても、集中を切らすことなく読み解いていく姿勢がみられ、そのことが反映した結果と考える。
特に劣っているもの	漢字(音)を正しく読むことができる。 16.7% (県 67.5%)	分母が小さいので誤答が重なれば大きく出るが、いずれ漢字の読み・書きの定着に苦んでいる生徒は複数おり、確実に対策は必要である。
読むこと	段落の内容を正確にとらえて、要点をまとめることができる。 16.7% (県 48.3%)	論理的思考が全体的に不得手な傾向にあることが影響していると思われる。説明文・論説文の授業に際して、展開の工夫等が必要である。
国語事項	ことわざの意味について理解することができる。 33.3% (県 59.7%)	ことわざなどは、触れる機会に恵まれるか否かによって大きく違ってくる。授業で触れることと同時に、あきわい漢語教材の開発も必要である。
対策 (補充指導・試みたい手立て・成果の上った理由)	○毎時間行っている漢字 5 問テストを継続するとともに、その準備としての家庭学習の充実を促す働きかけを行っている。 ○説明文・論説文の教材分析と展開の工夫に留意し、論理的思考が求められる場を意図的に設定していく。 ○朝読書や、字でのスピーチの取り組みと連動し、読書教材の選定・展開にも取り組む。 ○次年度目標等	
次年度目標等	○全体一授業と家庭学習の連動を図り、計画的な課題・単元一単元の興味関心を高める教材・教員一人一人の人数にかかわらず個人差が大きい。	

《H26 県学調 2 学年理科》

学年	教科 (理科)	(2) 学年
岩手県学調 本校の傾向や個々の状況	○「知識・理解」は、県に比べ本校は最高値。最低値とも高い。また、本校の最低値は県の中央値を上回っていること。さらには昨年度に比べ全体の得点が見られないので昨年度の集団より全体として達成率は高いと考えられる。(県比+7.7 → +13) ○「読み解く」は、最低値も県より 10 ポイント以上低く、特に今年度も昨年度に続き「観察・実験の技能」が伸びている。 ○「思考・表現」は、最低値も県に比べて低く、全体的に授業に臨む生徒が多いため、全員が授業の内容もよくわかる (100%) と回答する結果となった。 ○領域別に見ると、すべての単元が県平均の正答率を上回っているものの、昨年度に比べ「地盤」については、定着率が若干下がってしまった。	
設問と本校の正答率 (県)	設問と本校の正答率 (県)	分 析
特に優れているもの	① 知識・理解 示相化石 85.7 (37.6)	○例年「大地の成り立ちと変化」は例年同様、本校にも定着率の高い学習内容であったことから、標準学習時間に比し、余裕を持って学習内容の定着に努めた結果ではないかと考えられる。
	② 思考・表現 物質の特性 100(57.0)	○他の学習内容との関連もあり、生徒が振り返る機会が多い内容であるため、その関連性を繰り返し振り返りながら定着させられる。
	③ 知識・理解 気体の集め方 100(66.6)	○①～③ともに新年度の内容である。教科として弱いところを意識して指導してきた結果と考えられるが、他の標準範囲の学習内容についてもまだ定着を向上させる必要がある内容もあるため、指導方法を工夫しながら進めていきたい。
特に劣っているもの	① 思考・表現 状態変化と体積の関係 14.3(31.9)	○一般的な物質の状態変化と体積の関係は水の場合の例外は日常経験していることと照らし合わせて考えることができていない。知識の一般化については、どの生徒も標準とするところではあるため、今後も日常生活と関連付けながら指導していきたい。
	② 知識・理解 蒸気 42.9 (49.7)	○観察・実験が自分たちで検証して得た知識を定着できていなかった。類似問題を再度解くなどして定着させたい。
	③ 知識・理解 浮力 14.3(7.9)	○今回は単純な浮力についての知識の活用であった。浮力・水圧の用語をしっかりと呼称させ、再度確認の問題を解くことにより、力を付けさせたい。
対策 (補充指導・試みたい手立て・成果の上った理由)	○「状態変化」については、引き継ぎ人数を減少し今後もできるだけ生徒一人ひとりが観察・実験を行えるように授業を工夫していきたい。 ○「知識・理解」については、2 分間学習で前時の復習のみならず、既習事項・例年定着の低い内容も繰り返し短時間で効果的に復習できるような手立て・デジタル教科書の活用、また他校の ICT を活用し観察・実験の映像・音声を、柔軟個々の考えを全体に伝えられる生徒に合わせたものではなかったと考えられる。 ○昨年度に引き続き課題を設けることにより、生徒の時間をあまり感じず学習することができていた。標準範囲の終了時に確認テストを実施し、各小単元の終了時に確認テストを実施する。	

上記の様式で、各教科が学調の結果分析をしたものをもとに、研究部を中心に校内研を実施している。本校は、小規模校であり専門教科担任がほぼ一人であるが、教科だけの分析にとどまらず、支援の必要な生徒の状況 (点線枠) の交流も踏まえた、教科の枠を超えた研究会となっている。

1 学年国語：心配される生徒は、予想通り 26 問中 7 問しか正解していない。

また、分析の際には、質問紙の分析 (実線枠) も行い、生徒の学習への意欲と達成度状況との関連にも目を向け、各教科担当の授業改善にもつながっている。

1 学年国語：「国語の学習が大切 (必要) だと思う」は 83%、「授業の内容がよくわかる」は 67%。  
2 学年理科：2 学年の生徒は、必要性を感じ (86+14%)、意欲的に授業に臨む生徒が多いため、全員が授業の内容もよくわかる (100%) と回答する結果となった。

イ 独自の生活・学習の実態アンケート及び Q-U の結果を受けての生徒指導交流会の実施

《生活・学習の実態アンケートの抜粋》

宇部中学校では、生徒のみならずさまざまな方面で活躍し、自分の力を大に伸ばせる学校づくりをめざしています。1 学期も、行事・部活動・地域活動などでの皆さんの活躍は、すばらしいものでした。地域の方々からも大きな評価をいただいています。これからも輝かしい学校の中で、みなさんが新たな自分への挑戦を続けてくれるものと、とても楽しみにしています。このアンケートは、みなさんの現在の様子をとらえるもので、年 2 回行うものです。正直に記入してください。

1 家庭での生活 年 番 氏 名

① 学校に持っているものは、前日か。その日の朝にも必ずかかめるか。  
はい まあまあ あまり いいえ

② 平日は、家でどれくらい自分の自由になる時間があるか。(食事・ふろ・睡眠を除く)  
はい ( ) 時間 ( ) 分くらい

③ 平日は、1 日どれくらい時間テレビを見たか。ゲーム・インターネットをするか。  
テレビ : ( ) 時間 ( ) 分くらい  
ゲーム : ( ) 時間 ( ) 分くらい  
インターネット : ( ) 時間 ( ) 分くらい

④ 家では、主にどんな勉強をするか。(複数回答 OK)  
ア 学校の宿題 (先生からの課題)  
イ 学校の学習や復習 (今やっている授業の内容)  
ウ 自分で考えた家庭学習 (授業の予習復習ではない)。

<学習>

⑤ 学校の勉強で、がんばろうと努力している教科をすべて○で囲む。  
( ) 国語 ( ) 数学 ( ) 社会 ( ) 理科 ( ) 英語 ( ) 音楽 ( ) 美術 ( ) 体育 ( ) 技術 ( ) 家庭

⑥ その日の授業で何を学べたか、興味を持って受けているか。  
はい まあまあ あまり いいえ

⑦ 授業の内容はよく分かるか。(○=はい △=あまり ×=いいえ)  
( ) 国語 ( ) 数学 ( ) 社会 ( ) 理科 ( ) 英語 ( ) 音楽 ( ) 美術 ( ) 体育 ( ) 技術 ( ) 家庭

⑧ ふだんの授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると思うか。  
はい まあまあ あまり いいえ

⑨ 授業は、誰でも発言できる雰囲気か。  
はい まあまあ あまり いいえ

⑩ 分からないとき、授業の中で解決できるか。  
はい まあまあ あまり いいえ

⑪ テストで間違えた問題について、間違えたところをあとで勉強しているか。  
はい まあまあ あまり いいえ

Ⅲ 心の成長

① 難しいことも、チャンスがあれば前向きに挑戦しているか。  
はい まあまあ あまり いいえ

② いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか。  
はい まあまあ あまり いいえ

③ 人が困っているときには、進んで助けているか。  
はい まあまあ あまり いいえ

④ 学校では自分のよいところを認めてもらっているか。  
はい まあまあ あまり いいえ

⑤ 夢や目標を、困ったときに相談する人がいるか。  
ア はい (学校の友達・先生・先生以外の人) ○ E して下さい。複数 OK です  
イ いいえ

⑥ 将来の夢や目標を持っているか。  
はい まあまあ あまり いいえ

前記の様式で、アンケートを実施し、学期ごとに実施されている教育相談の資料とする。また、このアンケートの全体の集計結果やQ-Uの結果をもとに生徒指導交流会でも個々の生徒の状況が交流される。

**(2) 課題克服のための授業改善を意識した授業研究**

ア 県学調の分析結果から本校生徒の課題克服の手立てとして工夫した授業の展開（研究授業から）

学習指導案の中に調査結果の分析、本校生徒の課題を入れ、その克服のための手立てを具体的に盛り込んでいる。

① 数学科（6月10日（水）5校時実施・TT）

《学習指導案 生徒の実態から抜粋》

岩手県学習定着度状況調査の結果は、正負の数の計算や一元一次方程式を解く、3つの数の大小関係について不等号を用いて表すなど数学的な技能の問題では正答率が高かった。一方、数直線上の点から「整数」を選ぶ、文字式が表す数量をことばで正しく表現しているものを選ぶ、除法計算について式で正しく説明するなど数学的な知識・理解や見方・考え方を問う問題では正答率が県平均を下回っていた。

これらの実態をふまえ、用語の意味を明確に理解すること、根拠をもち筋道を立てて説明することができるよう、授業においては用語を使って説明する場面を設定し、言語活動を充実させていきたい。



《学調分析に基づいた展開の工夫のようす》  
自分のことばで説明し、お互いの考えを聞き合う

② 英語科（9月3日（木）5校時実施・TT）

《学習指導案 生徒の実態から抜粋》

昨年度の CAN-DO テストの結果によると、領域では「書くこと」が県比-8.0、観点別では「表現の能力」と「言語・文化の知識・理解」が県比-6.8 と、非常に落ち込んでいるのが特徴である。細かく分析すると、「単語を正しく聞き取る問題」や「英文の内容を正しく読み取る問題」の正答率が100%である一方で、「単語を聞き取って正しく書く問題」での正答率が非常に低い。このことから、基本的な単語を「聞く」「話す」

「読む」ことはできるが「書く」レベルまで達していないことや、文字と音が結びついていないために正しい綴りで書くことができないことがわかる。また、記述問題で無回答の生徒が多いことや、授業がよくわかると答えた生徒が少ない（33%）ことから、英語への苦手意識が強いと考えられる。これらの結果を踏まえ、今年度、英語科では「聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を身につけた生徒の育成」と「自分の気持ちや考えを英語で伝えられる生徒の育成」を目指し、授業改善に取り組んでいる。

(4) 本時の展開			
		●学調分析に基づいた展開の工夫	◎評価の視点・方法
段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 10分	1. あいさつ	・あいさつと、曜日・日付・天気などについての簡単なやりとりをする	
	2. ウォームアップ Q and A	・既習の表現を用いた質問をする	●質問にはフルセンテンスで答えさせ、さらに1文プラスさせる【表現の能力】
	3. 単元の GOAL の確認	・Program 6 の GOAL を全員で共有する	
	4. 今日の GOAL の提示	GOAL : 将来の夢を英語で伝えられるようになるう!	
展開 25分	5. 新出文型練習	・LEVEL1~3の課題に取り組みながら新出文型の定着を図る	●自己表現させることを GOAL とし活動させる【表現の能力】
	6. スピーキングテスト	・1人ずつ教師がチェックする	
	7. スピーチ練習 ・評価規準の共有 ・メモの作成 ・練習	・評価規準を共有する ・日本語でメモを作成する	
終末 15分	8. 発表	・1人ずつ発表する ・それぞれの夢の内容を確認する	◎将来の夢について、理由も合わせて説明することができる【表現の能力】
	9. まとめ ・自己評価 ・振り返り(英作文)	・自己評価カードに記入する ・発表した英文を書く	◎自己評価【関心・意欲・態度】 ●音と文字をつなげる【書くこと】
10. あいさつ			

《学調分析の工夫を入れた展開案》

《学調分析に基づいた展開の工夫》

- ・ 質問にはフルセンテンスで答えさせ、さらに1文プラスさせる【表現の能力】
- ・ 自己表現させることを GOAL とし活動させる【表現の能力】
- ・ 音と文字をつなげる【書くこと】

イ 授業研究会の工夫

授業研究会では、「学びの共同体」(佐藤学・佐藤雅博)から学んだ形式で、ここ数年間実施している。

3, 4人のグループによる「省察」を取り入れることで、研究会の活性化を図ってきている。研究テーマに沿いながら、生徒の名前も出しながら、教科の枠を越えた教師間の学びを具体的に交流できるようにしている。

ウ 相互に日常の授業を参観して学ぶ取組 (互観授業による授業改善)

① 授業の提供

各教科担任が、職員室設置のボード(1週間分の時間割を記載)に、参観可能なコマを表示する。他の教員はそれを見ながら参観する授業を決める。

② 回数

学期に一度は他の教員全員の授業を参観(一回り)する。ただし3学期は期間が短いことから、2学期は2度を目標に。提供もそれに見合う頻度になるように設定する。

③ その他

- ・ 学習指導案等は作成しなくてよい。授業を見てもらう上で資料(教科書のコピーなど)が必要と授業者が判断した場合は、教科で用意する。
- ・ 授業を見る視点等は研究部が提示(「生徒を見る!カード」)し、参観者のメモが授業者にわたるようにする。または、口頭で感想や改善点などを授業者に伝える。

(3) 学力保障に向けた組織的な取組の充実

ア 校内研の充実

① 研究主任を中心とした校内研の企画・運営

研究授業年3回を含めた研究会を年間7回実施する。

② 職員会議の中で随時研究経過の報告や各自が研修した内容の伝講を行う。

イ 「学力を支える力」の強化

① 取組(2)の内容を全職員がチームとして有機的に進めていく。

② 家庭・地域との連携・協働の強化

- ・ 年度当初のPTA総会において、「宇部中学校まなびフェスト'15」を保護者に提示し、家庭での過ごし方、特にテレビやネット、ゲームの時間など、家庭の協力を得ながら進めていく。
- ・ 今年度から、運動会に地域の方々の協力も得ながら、地域と学校と一緒にあった運動会を実施した。

ウ 校内英語検定「まなびリング」の実施



英語科で準備された宇部中英語検定のテキスト(右・下図抜粋)を使用する。10級からはじまり、今年度は13段まで準備されている。1学年は必ず10級(アルファベット大文字・小文字の中から50個のテスト)からスタート。それ以降は、各自がチャレンジする級を決めテストを受け、どんどん級が上がっていくシステムである。

年間7回の「まなびリング」テストが実施される。生徒は、自己申告した級の合格まで、昼休み等の時間を利用し、再テストを受けることになる。

NO.	英単語	カタカナ	ローマ字	意味
675	vacation	バカショウ	VAKAYESHON	during the winter vacation
676	volunteer	ボランテイア	VOLENTYOR	as a volunteer
678	band	バンド	BAND	play a guitar in the band
678	library	ライブラリー	LAIBUROR	go to the library to borrow books
680	plan	プラン	PLAN	plans for tomorrow
681	hour	アワー	AUOR	an hour ago
682	practice	プラクティス	PRAKUTISU	go to tennis practice
682	son	ソン	SON	He has a son.
684	country	クニ	KUNI	Which country do you want to visit?
684	meeting	ミーティング	MITINGU	the meeting held on Friday
686	newspaper	ニューズペーパー	NYUZUPOR	read a newspaper
687	scientist	サイエンティスト	SAYENTISUTU	a famous scientist
688	stop	ストップ	STOPPU	Get off at the next stop.
688	area	エリア	ERIA	a parking area
690	out	アウト	AUTU	an out lying in Tokyo
691	company	カンパニー	KANPANII	a computer company
692	farmer	ファーマー	FARMA	farmers in my town
692	garden	ガーデン	GARDEN	clean the garden
692	idea	アイデア	AIDAI	I have an idea.
696	lesson	レスオン	RESON	go to dance lessons
696	medicine	メディシン	MEDISHIN	take medicine
697	month	MONTH	MONTH	six months later
698	space	スペース	SEPU	space
698	station	ステーション	STEISHON	station
700	weather	ウェザー	WEZOR	weather

## エ 授業と連動した家庭学習の取組

職員室前の学年別ホワイトボードを利用した各教科からの課題の指示。数学・英語は原則毎日。国語・社会・理科は週末課題として提示。この課題は、教科の責任で提出、学習内容の定着の確認を行う。

## オ 個への対応

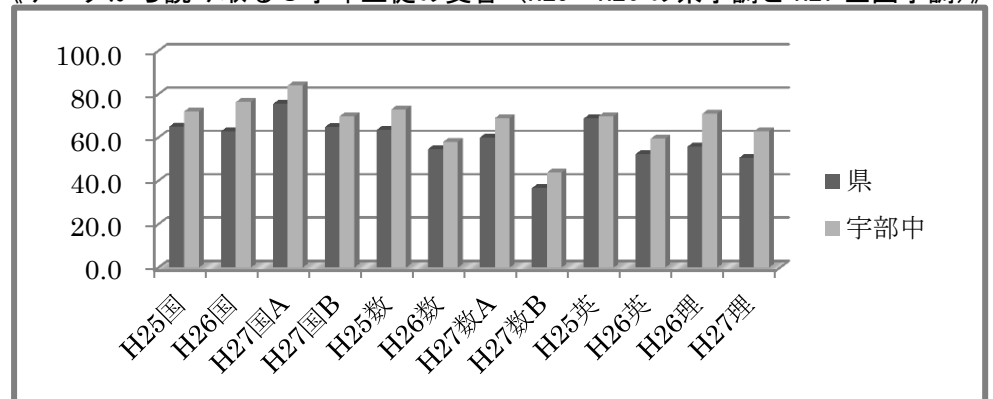
学力下位層への個別の支援は、授業において可能な限りティーム・ティーチングを組んでいくことや個に応じた課題設定を工夫している。また、授業時間外の支援については、昼休み時間・放課後の時間を利用しながら、個別に学習支援を行っている。

授業と連動した家庭学習についても、個に応じた進め方を各教科・学年が連絡を密にし、家庭とも連絡を取りながら連携し進めている。

## 【成果】

全体として、学力保障への取組を宇部中学校というチームとして取り組んでいることが大きな成果ではないかと感じる。各種調査の結果もその正答率にのみ一喜一憂するのではなく、良くも悪くも、なぜそのような結果になったのかという**分析結果を全教員で**

《データから読み取る3学年生徒の変容（H25～H26の県学調とH27全国学調）》



**共有**することにより、各教科のみならず教科を横断した課題も見えてくる。そこから、**教科で考えた具体的な改善策をより全体のものとして練り上げていく**ことができる。このような取組が学力向上につながっていると考えられる。

また、研究授業において、学習指導案の中に調査結果の分析・課題・克服のための手立て等を具体的に盛り込むことで、**学力保障の取組と校内研究の取組を関連付ける**ことができた。そのことにより、**課題克服のための授業改善が推進**された。

教科における成果としては、次のようなものが挙げられる。

国語：全国学調では、「目的に応じて要旨を捉える」問題で、正答率が71.4%であった。2年時での県学調において、「段落の役割をおさえながら、文章の構成や展開をとらえることができる」という設問において正答率が14.3%だったことを踏まえても、説明的文章の読解力が伸びているといえる。

数学：「関数」の領域において、2年生は昨年度の県学調で正答率が県比-12.5%だったが、今年度+5%と伸びている。また、3年生は昨年度の県学調で-0.1%だったが、今年度全国学調の[数学A]で+11.4%と伸びている。

英語：3年生がこれまでに受けた各種調査結果を見ると、1年時には「書くこと」の正答率が低かったが、「まなびリング」で英語に取り組み始めた2年時では県比+14.7%とプラスに変容した。また、今年度のチャレンジテストでは語彙の正答率が84.3%(H24年度80.4%、H25年度83.3%)とここ3年間で最も高くなっていることから、本校で取り組んできた「まなびリング」の取り組みを通して語彙力や「書く力」は少しずつではあるが向上していると考えられる。

さらに、本校は小規模校ながら個への支援が必要な生徒が数名おり、数学と英語において、1学年および2学年では**教科担当にとられないティーム・ティーチング**を進めているところである。個への支援の多様さもあり、まだまだ十分とはいえない部分もあるが、**教科ごとの細やかな補充**が生徒達の「わかる」から「できる」を実感させることで学力向上につながっているのではないかと考える。